

防災のヒント④

糸魚川市駅北大火のような災害は、いつどこで起きてもおかしくありません。いざという時に自分の身を自分で守れるように、また、少しでも災害を防ぐことができるように、日頃から防災知識を蓄えていきましょう。



付いていますか？ 住宅用火災警報器



平成18年より住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器とは、熱や煙を感知し、音や音声で警報を発して火災の発生を知らせる機器のことで、寝ているときの逃げ遅れ防止にも有効です。全国的には設置によって、死者数は約4割減、損害は半分に減っています。また、市内でも逃げ遅れを防いだ事例もあります。一昨年、糸魚川市駅北大火が発生し糸魚川市だけではなく全国的に火災についての関心が高くなっているなか、今一度、機器の設置状況をご確認ください。

**設置から10年が
取替の目安!** 「点検ボタンを押す」「ひもを引く」など
定期的に点検をしましょう。

住宅用火災警報器の購入費を補助します!

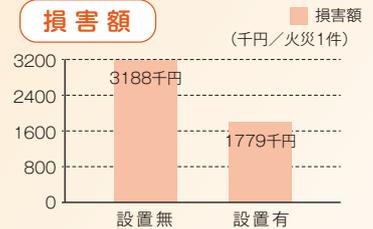
火災予防推進のため、住宅用火災警報器の新設や更新にかかる費用の一部を助成します。詳しい内容は6月8日発行予定の「おしらせばん」をご覧ください。

設置するとこんなに違う!

死者数



損害額



焼損床面積



※グラフ引用元:総務省消防庁ホームページ

REPORT

復興まちづくり講演会

～イベントの様子を振り返る～
2018年4月11日(水)



ヒスイ王国館で「欲しい未来は自分でつくりようーまちを支えるモノ・ヒト・コト・カネー」というテーマで講演会を開催しました。建築家・クリエイティブディレクターとして活躍、大火被災地の復興にも関わる西村浩さんを講師にお招きし、追加で椅子が用意されるほど多くの人から参加いただきました。グラフや表、他の地域の実例などわかりやすい資料をもとに、「補助金に頼らず民間が自立してお金を稼ぐ、地域内経済循環がこれからのまちづくりです。空き家や空き地を活用し、地域に根付いた人やコンテンツを集め、エリア自体

の価値をあげることが重要になります」という話の際には、大きく頷く参加者の姿も。ほかにも、まち全体を一つの宿と見立ててまちぐるみで宿泊客をもてなす「まちやど」の可能性にも触れ、人口減少が課題となる中「住んで良し、商売して良し」の「選ばれるまち」にするためにはどうしたらいいか、被災地の復興とその先の将来について考えさせられる講演会となりました。

復興や防災にまつわる News

NEWS 01

こども消防隊訓練実施

5月12日(土)午前9時から、糸魚川市消防本部でこども消防隊の訓練を行います。今回の訓練は4班に分かれた、バケツリレーによる初期消火訓練です。

NEWS 02

特定相談活動スタート

復興まちづくり情報センターでは、毎週火曜に市内の商工業者経営相談を、木曜に市民から大火復興に関する相談を受け付ける特定相談活動を始めました。両日とも時間は午後1時30分から午後4時です。詳細は、復興まちづくり情報センターまで。

いとバタ 会議録

皆さんは「工事の音」を耳にした時、どんな感想を持ちますか?もちろん人それぞれかと思いますが、被災地域の方からは「工事の音が聞こえるとさみしくない」と思う方もいるそうで。「復興の音」そのものなんですね。(編集部T)